

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	7	秘書企画費	153

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光戦略
事業目的	新たな2つのホテル開業、リニア中央新幹線の開通など、今後予想される市の観光を取り巻く環境の変化に対応するとともに、新型コロナウイルスの影響を鑑み「新しい観光」という視点も踏まえ、持続発展する観光地となるため、詳細な調査・分析を基に観光戦略を策定し、戦略的な観光施策を進める。あわせて、観光関係者、地域住民やまちづくり団体など多様な人々が集う観光まちづくり会議を開催し、観光と暮らしの調和や産業としての成長の実現を目指す。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度：観光に関する調査・分析、観光まちづくり会議、観光戦略会議開催などを経て観光戦略の体系整理を実施。 ・令和2年度：新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初は令和2年度中の策定完了を予定していたが計画を変更。令和2年度は新型コロナが観光に与える影響や新たに生じた課題の把握、コロナ禍における事例研究、コロナを経ても観光を推進するにあたり必要となる「犬山らしさ」の研究・検討を専門部会の開催により進め、これらを踏まえ、体系整理修正案を作成した。 ・令和3年度：「犬山市観光戦略」策定、観光まちづくり会議開催 ※観光まちづくり会議については、令和4年度以降も継続的な取り組みとして開催予定 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○観光に係る調査・分析、観光戦略会議、観光まちづくり会議の開催（令和元年度） ○新型コロナウイルス感染症拡大の影響等を検証（令和2年度） <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大が本市観光に与えた影響、新たに生じた課題の把握、コロナ禍での事例研究、コロナを経ても観光に必要な「犬山らしさ」の研究・検討 ・令和元年度に作成した観光戦略体系整理の修正案作成 ○観光まちづくり会議の開催（令和元年度・3年度（予定）） <ul style="list-style-type: none"> ・事業者、地域住民、まちづくり団体の方など、観光に関わる人が集い、「地域の課題」や「犬山観光のあるべき姿」を共に考え「実践」までを目指す場と機会を設ける。 ○観光戦略の策定及び印刷（令和3年度（予定）） <ul style="list-style-type: none"> ・附属機関である観光戦略会議及び専門部会での検討を踏まえ観光戦略を策定する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略会議委員報酬 86千円
事業の成果・効果	令和元年度は、調査・分析を実施し、観光戦略会議での議論を経て観光戦略の体系整理を設定した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、コロナの影響やコロナ禍での将来の観光動向、コロナを経ても必要な「犬山らしさ」について専門部会を中心に研究・検討を行い体系整理（骨子）の修正案を作成することができた。

II : 個別事業内訳

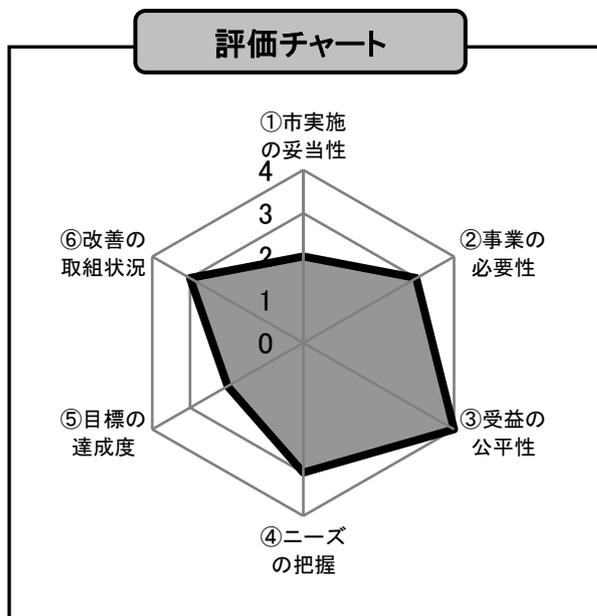
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光戦略	194	72	122	63%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	194	72	122	63%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		11,600	194	8,458
財源内訳	国県支出金	5,679	72	4,072
	地方債	0	0	0
	その他	5,921	0	4,386
	一般財源	0	122	0
一般財源の割合		0%	63%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	観光協会やDMO(観光地域づくり法人)などが観光計画を立案している事例もあるが、現状の犬山市では市が実施主体として策定すべきものである。
②事業の必要性	3	今後の犬山観光の方向性と具体的なアクションプランを定める為の戦略策定事務であり、市民の生活に関わりのあるものであり、事業の必要性は高い。
③受益の公平性	4	観光戦略策定の目的の一つに、「観光の産業化による市民への効果の還元」を掲げており、地域経済、雇用などの面も含めて、多数の市民が恩恵を受ける犬山観光を目指すための事業である。
④ニーズの把握	3	R1実施の市民意識調査に観光に関する設問を3つ入れ、観光にもっと力を入れるべきとの回答が62.4%あった。また、R1実施の観光戦略策定支援業務の中で、観光客などのアンケートを含む調査分析を実施した。
⑤目標の達成度	2	当初は令和2年度策定完了を予定していたが、新型コロナの影響等の把握や検討を行う必要が生じ、事業計画を変更した。
⑥改善の取組状況	3	令和元年度に本格的にスタートした事業であるため、従前と比較し、見直す事業ではないが、コロナの影響等の研究・検証を実施するなど、情勢に応じて業務見直しを実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	当初は令和2年度に観光戦略を策定完了予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定を変更し、コロナの影響やコロナ禍での将来の観光動向、コロナを経ても必要な「犬山らしさ」について専門部会を中心に研究・検討を行い体系整理(骨子)の修正案を作成することができた。
令和3年度に見直しを実施している事項	令和元年度、令和2年度に実施した内容及び成果を踏まえ、犬山市観光戦略を策定する予定である。
今後見直しを検討する事項	令和3年度に観光戦略を策定完了後は、具体的なアクションプラン(重点事業)等の実施や観光まちづくり推進体制の構築を図ることとしている。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
戦略策定後の重点事業実施の為の予算を含めた実施体制確保。コロナ禍で観光に関わる方が集い課題の検討や実践を目指す観光まちづくり会議の開催が困難な状況に。	戦略策定のプロセスで重点事業についても十分な精査と関係者の合意形成、具体的な実施体制の構築を目指す。観光まちづくり会議は少人数での開催など、実施方法を工夫するなどして、令和3年度以降の継続実施を目指す。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	273

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光振興事務
事業目的	観光に関する各種情報をわかりやすく整備し、犬山への誘客増を図るとともに来訪後の利便性と満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市の観光情報ホームページについて、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら管理する。 ・公共駐車場の空き状況や犬山城の待ち時間表示等、観光客に必要な情報を随時正確に提供する。 ・各種イベントなどにポスター等の広告物を提供し、観光振興を図る。 ・観光施策事業推進に資するデータや情報等収集のため、情報誌を購入する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市観光情報ホームページ管理業務委託料 660千円
事業の成果・効果	観光振興・観光宣伝において、犬山観光情報ホームページは観光客に対し犬山の魅力を伝え、来訪意欲を喚起する点において極めて重要であり「犬山観光の玄関口」という位置づけである。ホームページ内ではイベント告知をはじめ、様々な観光に関する情報を積極的に発信しており、旬な情報提供を心がけ、見やすさ、わかりやすさに配慮しながら実施するなど、観光振興における重要な役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

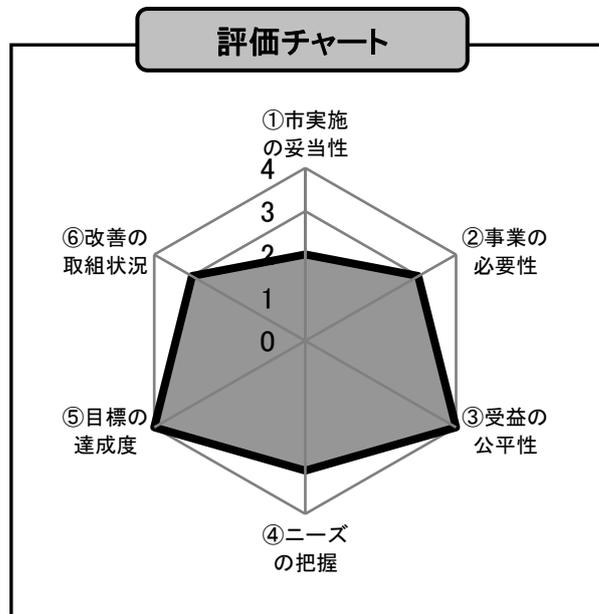
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光振興事務	881	0	881	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	881	0	881	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		781	881	856
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	781	881	856
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	市、観光協会、民間事業者で連携して実施しており、民間だけでは多面的で充実したサービスの提供は困難である。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業である。
③受益の公平性	4	事業の主たる対象は不特定多数の観光客であり、特定の個人・集団に偏ることなく、公平性は保たれている。また、ホームページ等で発信される内容は観光客だけでなく、すべての市民に対しても楽しく有益な情報提供になるよう努めている。
④ニーズの把握	3	城下町(本町通)を中心に、随時、住民、事業者へ声掛けを行うなど、意見集約に努めている。
⑤目標の達成度	4	犬山観光の情報をホームページによりわかりやすく、随時発信することができ、当初の目的は達成した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	犬山観光情報内に展開している体験型観光メニューの内容について、適宜メニューを更新したり、紹介文を精査したりするなど、わかりやすく親しみやすい内容を常に心がけ実施することが出来た。
令和3年度に見直しを実施している事項	常に鮮度と質の高い情報発信を心がけ、継続することが重要であり、第一義に考え、事業実施していく。その上で、体験型観光メニューの情報など、より分かりやすく関心を促すような内容を適宜提供していく予定である。
今後見直しを検討する事項	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力する。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山観光情報の内容の更なる充実と鮮度の維持向上。	ホームページの内容の精査を適宜進めることに注力していく。情報の鮮度や内容の深まり、充実を心がけることで、観光客にとっても、市民にとっても理解と関心、親和性を高める犬山の観光情報の玄関口となるよう、精度を高めていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光協会運営費補助
事業目的	観光振興に必要な知見とノウハウを有する犬山市観光協会に対して運営費補助を実施することで、広域での観光振興や海外を含むメディアセールスを実現し、インバウンド需要への対応や国内誘客を推進する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○犬山の観光推進に関する体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光振興のため、観光協会の人件費の一部を補助することで事務局体制を維持・強化し、新たな観光戦略への挑戦、広域圏からの観光誘客、招聘等、法人ならではのスピード感を持ち、機動力を活かした観光推進を実現する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬山市観光協会運営補助金 25,060千円
事業の成果・効果	(一社) 犬山市観光協会は、信頼性、柔軟性、旅行会社経験者の専門的知識等、組織力を活かした観光振興を実施している。市だけでは成し得ない宣伝・営業など幅広い事業展開を可能にしており、観光振興・宣伝において十分な成果を発揮し、多くの観光誘客を実現している。犬山観光の核としての役割を十分に全うしている。

II : 個別事業内訳

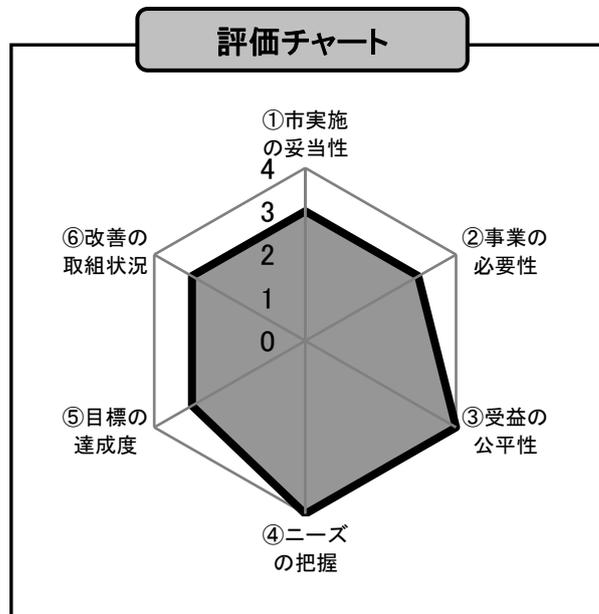
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光協会運営費補助	25,060	0	25,060	100%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,060	0	25,060	100%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		25,810	25,060	26,541
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	25,810	25,060	26,541
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光協会は、市単独では実施不可能な観光宣伝・誘客を実現しているとともに、公益的な役割も果たしている。組織として持続発展するためには、市が主体的に運営を支援する必要がある。
②事業の必要性	3	犬山の観光振興を推進することで、市の認知度向上、域内消費額の増加による地域経済活性化、及び郷土愛醸成に繋がる重要な事業であり、中心的役割を担う協会の存続は必要性がある。
③受益の公平性	4	協会への補助を通じて不特定多数の観光客への利便性向上に資するものであり、事業効果としての公平性は保たれている。また、観光振興、観光まちづくりにより、すべての市民に対しても有益な取組みとなるよう努めている。
④ニーズの把握	4	城下町(本町通)を中心とした地区住民との意見交換や、事業者への説明会などを通じて、課題の把握と共有、改善のための提案・実践に努めている。
⑤目標の達成度	3	法人化による信頼感、責任感、使命感を持って観光宣伝事業や自主事業等を行い観光振興を前進させている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	観光振興に関し、犬山市観光協会は地域の観光の核としての役割を責任感を持って全うしており、補助額は前年とおりで妥当である。取り分け令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、出来得る観光振興に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	補助額及び予算規模等は前年と同様だが、実施体制や事業内容等については適正な精査を行い、適宜報告を受けることでより効果の高い補助事業となるよう努める。取り分けコロナウイルス影響下において、持続可能な観光地として維持発展できるよう、これまで以上に観光まちづくりを意識した取組みを期待する。
今後見直しを検討する事項	現時点においても地域の観光振興の核としての重責を果たしているところであるが、今後「観光まちづくり」を加速的に推進していく役割を担うよう求めていくことで、地域での存在感を増していくよう期待する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
観光を切り口とした「地域づくり」が進むよう、取組み内容を精査・充実させていくこと、及び観光が産業として成長すること。	現時点においても地域の観光振興の核としての重責を果たしているが、今後は「観光」による地域活性化、地域の人財育成に繋がる取組みを進める。こうした「観光まちづくり」を加速的に推進していく役割を担うよう協会に求めていくことで、地域での存在感を増していくことを期待する。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	275

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光客誘致
事業目的	(一社) 犬山市観光協会と連携したキャンペーン等の宣伝活動の実施、各種協議会との協働による広域での観光PR活動等を通じて犬山観光の魅力を高めるとともに、ブランドイメージを向上させることで、全国から犬山への観光誘客を図る。また魅力の磨き上げによる郷土愛の醸成にも努める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通渋滞緩和と観光客と住民の安全を図るため、警備員を配置する。 ○犬山観光キャンペーンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋鉄道(株)、(一社) 犬山市観光協会と連携した犬山キャンペーンについて、春は事業途中で実質中止、夏も縮小。秋は期間内は実施できたが内容は変更となった。 ○まつり・催事の中止 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山祭の車山運行は中止。 ・日本ライン夏まつりロングラン花火大会も中止となった。 ○キャラバン等による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各地でのキャラバン等の観光宣伝活動は中止・規模縮小など状況を踏まえ実施した。 ○地域連携、広域連携による観光宣伝の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各種協議会、連携市町との連携による観光宣伝、集客イベントも多くは中止。媒体作成など内容を変更するなど、工夫した取組みが必要となった。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山城下町交通誘導警備委託料 11,316千円 ・各協議会等負担金 23,026千円 (飛騨木曾川、国宝城郭都市、犬山集中大規模等) ・各団体補助金 350千円 (桃太郎あゆまつり催事)
事業の成果・効果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度の観光誘客は大変厳しい状況となった。観光動向の指標とされている令和2年の犬山城登閣者数は約26万人となり対前年比44%に落ち込んだ。一方10月、11月など緊急事態宣言が解除されていた時期では城下町を中心に観光客も多く、コロナによる浮き沈みが見られた。犬山キャンペーンの中で、非接触型のスタンプラリーを初めて導入するなど、コロナ禍における誘客宣伝活動にも工夫を凝らし、持続可能な観光地としての模索が続く中、知見や経験値を高めることができており、今後の誘客活動に役立てていく。

II : 個別事業内訳

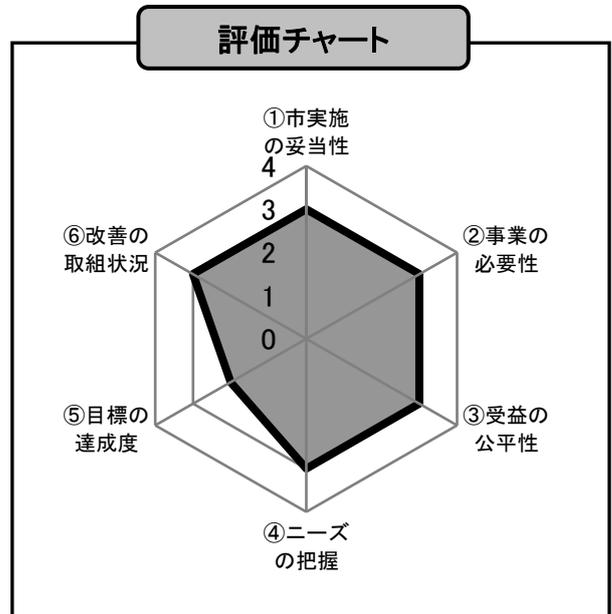
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光客誘致	35,983	683	35,300	98%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	35,983	683	35,300	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		89,962	35,983	72,844
財源内訳	国県支出金	2,947	662	1,314
	地方債	0	0	0
	その他	30,995	21	23,119
	一般財源	56,020	35,300	48,411
一般財源の割合		62%	98%	66%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市、(一社)犬山市観光協会、民間事業者等で連携し実施している。
②事業の必要性	3	名古屋鉄道をはじめとする民間事業者との連携、キャラバン等の誘客宣伝活動の実施は、域内消費額や雇用の増加を目指し郷土愛を高めることに資する観光施策として必要性がある。
③受益の公平性	3	今年度はコロナ禍で開催を断念したが、犬山祭や日本ライン夏まつりは市民に愛される催事であり誰もが楽しみ恩恵を受けるものである。
④ニーズの把握	3	登閣者数、スタンプラリー参加者数などを通じてニーズ把握に努めている。また、キャンペーン開催時の説明会などでも意見交換をするなど、課題の把握を図っている。
⑤目標の達成度	2	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来予定していた誘客宣伝活動は中止など制限され、一部は手法を見直し工夫して実施することとなった。
⑥改善の取組状況	3	コロナ禍において、事業の妥当性、経済性、安全性、持続可能性等を考慮している。今後もコロナを念頭に効果的で持続可能な観光振興を展開していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、誘致活動は中止になるなど制限を大きく受けた。犬山祭の車山運行や日本ライン夏まつりロングラン花火など主要催事は中止となり、他の誘客宣伝活動も縮小や変更を余儀なくされ予算も減額。事業内容も営業等から媒体作成に変更するなど、コロナ禍でも可能な誘客活動を模索した。
令和3年度に見直しを実施している事項	コロナの影響は大きく、各協議会事業は、内容の変更・中止など実状に合わせた取組みを検討し将来の観光振興に繋がる事業展開を図る。シェアリングエコノミー推進事業は、体験メニューを拡充する中で、オンラインも視野に入れ取組みを工夫。地域での観光の有用性が高まり、市民への還元も見据えた取組みを進めていく。
今後見直しを検討する事項	令和3年度は引き続き新型コロナウイルスの影響を踏まえつつ、事業内容の変更、規模の縮小など事業の再検討行う。一方で、コロナ禍でも実施可能な事業展開を模索・実施し、将来における犬山観光が再び回復できるよう、取組みを進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各事業の内容精査。各協議会の取組み充実検討。これまで以上に観光振興に資する取組みの検討と充実。	新型コロナウイルスの影響拡大を契機に、観光振興の在り方や施策の方向性、考え方を再検討・再構築すべき状況にある。「シビックプライド」としての機能・効能や「まちづくり」ツールとしての「観光」の在り方を、事業者、住民、各団体と協働により研究・検討していく必要がある。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	273

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光案内所運営
事業目的	観光案内所の適正管理運営と案内機能を充実させることにより、観光客へのおもてなしと満足度を高める。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山駅観光案内所、及び令和2年3月に移転新設した城前観光案内所の二か所を通年で開設。来訪者に対して正確で丁寧な観光案内を実現する。 ・運営は観光振興に関する知見とノウハウを豊富に有する犬山市観光協会に対し委託業務として発注。コロナ禍においても安定的な管理体制を実現する。 ・年末の営業日数延長については、実施体制の構築及び混雑状況等を鑑みて検討・実施する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山観光案内所運営委託料 18,231千円（犬山駅、城前）
事業の成果・効果	観光客を迎える玄関口として犬山駅、及び城前の2か所で観光案内所を設置しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、4、5月は施設閉鎖を余儀なくされるなど、厳しい状況にあった。一方で、飛沫拡散防止パネルやソーシャルディスタンスを促すマーク、消毒液の設置など、コロナ禍での安心安全を確保するための措置を講じ、持続可能な観光地としての知見や経験を培うことができた。来訪客に対しては、観光案内や情報の提供を丁寧に実施することができた。運営は犬山市観光協会に委託し、コロナ禍での厳しい中ではあるが適切な運営を行った。

II : 個別事業内訳

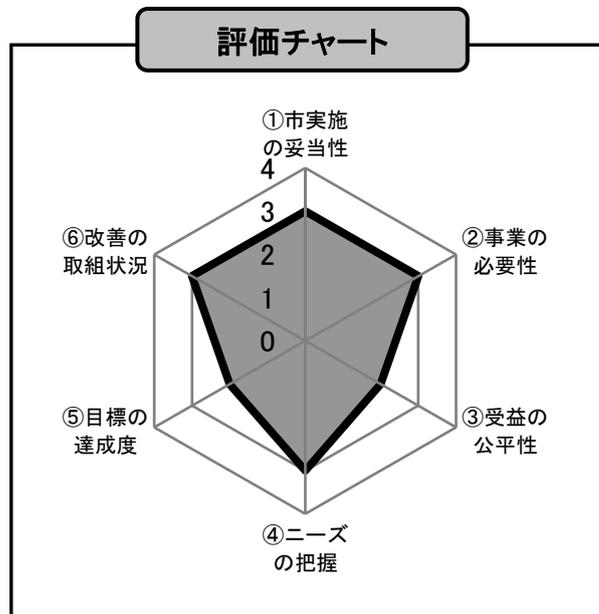
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光案内所運営	18,385	17,580	805	4%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,385	17,580	805	4%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		17,419	18,385	21,312
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	17,419	17,580	21,312
	一般財源	0	805	0
一般財源の割合		0%	4%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	観光客の旅の利便性確保のため主体的に設置・運営する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業である。その中で観光の玄関口となる案内所の運営は、ストレスなく快適な観光を実現するため、必須である。
③受益の公平性	2	観光案内所で必要かつ的確な情報提供を行うことで、来訪者が円滑に移動し渋滞や混雑の緩和に資することになり、地域住民に対する生活への影響を小さくする。
④ニーズの把握	3	案内所窓口で直接意見や提案を聞きしたり、観光関係者等から意見を求める等、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、施設閉鎖など想定外の状況になったが、開設時には丁寧な接客、わかりやすい観光案内を高水準で実施できている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実現できている。今後はコロナ禍での安心安全の確保、持続可能な観光地を構築できるよう取組みを強化する。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、観光客を安心して迎えることができるよう、飛沫飛散防止パネル、消毒液、ソーシャルディスタンスのマーク等を設置するなどの措置を講じるなど工夫することができた。
令和3年度に見直しを実施している事項	依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続く為、安心安全な観光地として維持継続できるよう、コロナ対策を標準装備として適宜適切に実施する。併せて職員的安全確保にも留意する。
今後見直しを検討する事項	コロナの状況を踏まえつつ、城前観光案内所では、情報発信・提供、休憩機能など、多様な機能を有した観光交流拠点として充実させていきたい。特に城下町から河畔、市域に点在するテーマパーク、その他自然資源へのアクセスが円滑にできるよう、バスやタクシー等も含めた移動拠点としての機能を充実させていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
案内機能の充実。市民が活躍できる仕組みの構築。更なるコロナ対策の徹底。	コロナ禍での取組みであることを前提に、物販等更に稼ぐ手法の検討を行うとともに、観光が面的に広がり分散化が図れるよう、市内各地を結ぶハブ機能としての充実を研究・検討する。多目的スペースの利活用を促し、市民が活躍できる仕組み構築を検討する。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	273

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光施設管理
事業目的	観光トイレ、園地等広場、及び観光案内看板等の維持管理を適正に行うことで、観光地としての利便性とイメージを高め、来訪者の満足度を向上させる。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各案内看板の適正な維持補修及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した看板等を修繕し来訪者の安全と利便性を高める。 ○各観光トイレの定期的な清掃及び維持補修管理 <ul style="list-style-type: none"> ・観光トイレ等を通年で清掃等の維持管理を行うことで清潔さを保ち、観光客の利便性を高める。 ・破損等が生じたトイレの維持補修を実施する。 ○観光施設の除草剪定等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の除草剪定作業を定期的に行い、施設の適切な維持管理を実現する。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆便所、観光施設等修繕料(二ノ宮WC、栗栖園地) 2,528千円 ・観光地施設除草剪定業務委託料 1,881千円 ・観光施設の巡回清掃及び公衆便所の清掃管理業務委託料 9,516千円 ・観光案内看板撤去工事 935千円
事業の成果・効果	観光客へのおもてなしとして、観光施設の維持管理は重要である。清掃や除草剪定等の日常の維持管理はもとより、トイレの不具合等への迅速な対応のほか、劣化が進んだ案内看板は順次修繕を実施するなど、適正な管理を実施することができた。

II : 個別事業内訳

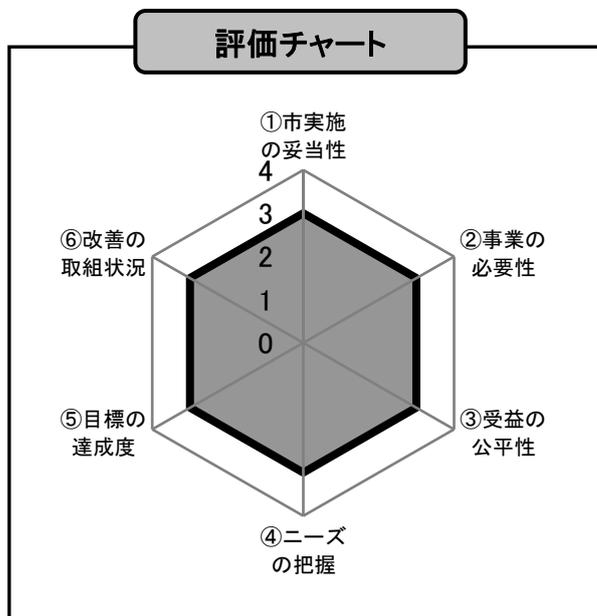
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光施設管理	17,952	17,952	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	17,952	17,952	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		18,260	17,952	17,346
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	18,260	17,952	17,346
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	公共施設として観光客の旅の利便性確保のため主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、観光振興は必要な事業であり、施設の適正な維持管理など受け入れ環境の充実が必要である。
③受益の公平性	3	トイレをはじめとした公共施設は、観光客だけでなく、市民の利用も多く、誰もが利活用可能である。観光駐車場利用者には料金を徴収しており、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	3	施設利用者や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	3	公衆便所等の観光施設は維持管理が支障なく出来ている。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	観光施設の巡回清掃、除草剪定については、実施回数や時期、及び手法など、効果的かつ適切に行うことができるよう、受託者と協議の上、工夫して実施するように努めた。2つの公共駐車場間での円滑な誘導を実現するため、受託者と協力し案内表示を工夫するなど利便性向上に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	観光案内看板のうち、老朽化したものは順次修繕・更新をしていく。犬山遊園駅及び犬山駅西口に設置している案内板については、新設ホテル建設など新たな動きに連動し、効果的な利活用を検討する。また、彩雲橋トイレについても令和4年度施工を予定し準備を進める。
今後見直しを検討する事項	看板や公衆トイレ等、老朽化が進む施設も多く、快適なおもてなし環境を構築するために、効率的効果的な更新・修繕を実施していく。そのために、優先順位と必要性を十分吟味し計画・実践を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の計画的かつ効率的な更新。財源の安定的な確保、効果的な受け入れ環境整備の検討と設定。	適切な施設の維持管理を実現するためには、日常的な維持管理や点検等、効率的な運営を進める必要がある。老朽化に対する対応など、計画的に実施していく。また、管理者である職員の経験値を全体的に高めるとともに、ノウハウが共有できるような仕組みを構築していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	273

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光駐車場管理
事業目的	キャッスルパーキングと内田観光駐車場の自動ゲート化により一体的な管理運営を行うことで、城下町エリアに訪れる観光車両を効率的に受け入れるとともに、利用料による自主財源の確保を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <p>○キャッスルパーキングと内田観光駐車場を自動ゲート化し一体的な管理運営を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田観光駐車場及びキャッスルパーキングを効果的に運用する。 ・混雑時には多目的広場を利活用し利用料を得て自主財源確保に努める。 <p>●主な事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷製本費（駐車券） 1,985千円 ・観光駐車場管理業務委託料 22,418千円
事業の成果・効果	城下町地区に整備した2か所の公共駐車場（キャッスルパーキング、内田観光駐車場）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、4、5月は施設閉鎖となるなど厳しい状況となり、利用台数としては対前年比69%となった。ただし維持管理及び運営自体は受託事業者と連携し適切に実施することができた。

II : 個別事業内訳

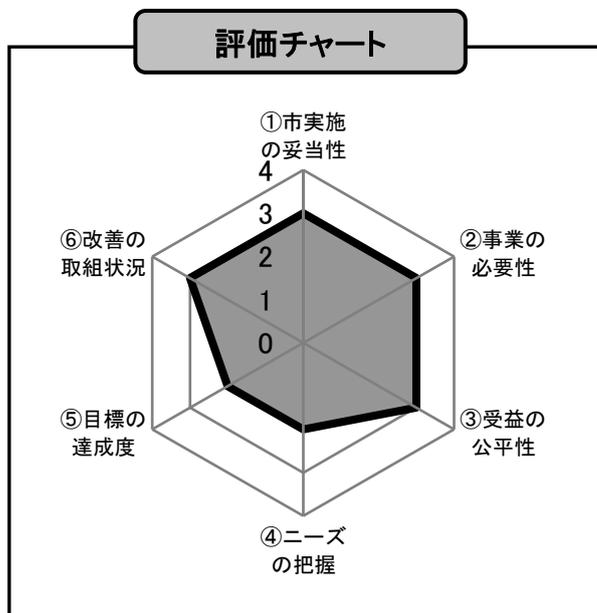
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光駐車場管理	25,295	25,295	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,295	25,295	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		25,216	25,295	27,483
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	25,216	25,295	27,483
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	受け入れ環境を整備し、観光客の旅の利便性確保のため、主体的に実施する必要がある。
②事業の必要性	3	観光都市犬山として、受け入れ環境の整備は必要な事業である。また、渋滞緩和や混雑改善のため、地域住民への生活支障を少しでも軽減させるため、施設の整備は必須である。
③受益の公平性	3	渋滞緩和等の交通状況の改善を図り、周辺住民への影響を軽減させることになり、必要な事業である。また駐車場利用者には料金徴収し、受益者負担を適切に実現している。
④ニーズの把握	2	観光客(利用者)や観光関係者等から意見を求めるなど、ニーズを常に把握し進めている。
⑤目標の達成度	2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、利用者数は対前年比で69%となるなど、厳しい状況となった。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を常に考慮しながら、観光施設の管理・運営を実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルスの影響により、駐車場の運営を一時休止するなど、非常に厳しい状況となったが、コロナ禍においても適切に運営できるよう、案内表示や2つの駐車場間の誘導など、知見や経験値を蓄積した。
令和3年度に見直しを実施している事項	依然としてコロナの影響は予測を許さず、今後の予測は困難であるが、コロナ禍であっても観光客に対して丁寧な対応を行い、満足度を高める工夫に努める。また、円滑な誘導などにより、周辺の混雑緩和に努め、地域住民の生活への影響が少しでも軽減できるよう、尽力する。
今後見直しを検討する事項	コロナ後は、従前から抱えていた課題として観光ハイシーズンとなるGWや紅葉時期など、駐車場が満車となり車列が道路に溢れる状況があった。過大な事業費はかけずに、ピーク時の的確な対応が実現できるよう、検討していきたい。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
駐車場管理の更なる効率的な運用方法。余剰スペースの利活用。内田駐車場多目的広場利用時の効率的な誘導。2施設間の効果的な誘導方法確立	駐車場管理は安定的な収益と適切な運営がある程度実現できている。しかしながら、ピーク時の適切な対応方法など、改善すべき点も多いため、受託者等と十分な協議を行い、更なる改善を図る。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	木曽川うかい事業費特別会計繰出金
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川うかい事業費特別会計繰出金 30,209千円
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるとともに、大雨などによる河川の増水も多く、鵜飼観覧者数は昨年度よりも激減した(対前年比約16%)。非常に厳しい一年となったが、伝統漁法として保存継承をすることはできた。船頭育成事業においては、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II : 個別事業内訳

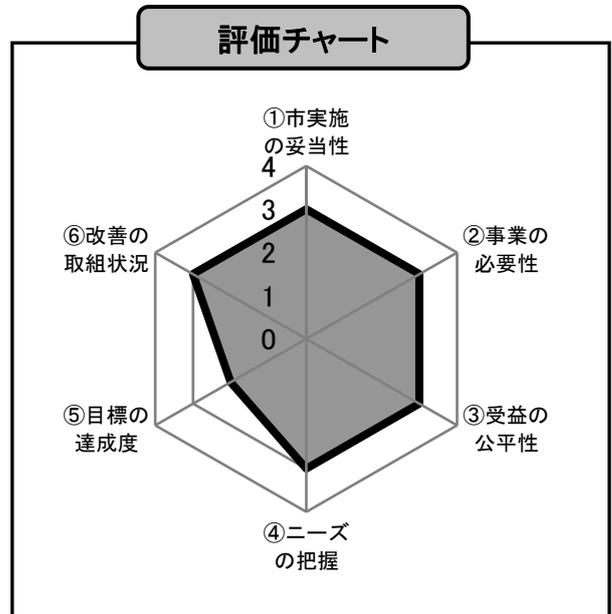
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
木曽川うかい事業費特別会計繰出金	30,209	30,209	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,209	30,209	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		59,417	30,209	57,270
財源内訳	国県支出金	5,721	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	53,426	30,209	57,270
	一般財源	270	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、多くの方に参加いただいていることから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	2	鵜飼観覧者数は新型コロナウイルスの影響が大きく、加えて大雨による川止めも多くなり激減した。船頭育成事業は、計画どおり進捗した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、令和2年度は観覧者数が激減するなど、大変厳しい状況となった。そうした中、観覧にあたっては、船会社(木曾川観光(株))と連携しながら乗船者数を半数にするなど、感染症対策を講じながら実施し、コロナ禍における運用の見聞や経験を蓄積することができた。
令和3年度に見直しを実施している事項	引き続きコロナの影響は大きく予断を許さない状況であるが、感染症予防対策をしっかりと講じ、安心して楽しんでいただけるよう、関係者と連携して伝統漁法を継承していきたい。また、市民鵜飼なども感染症対策を工夫し開催し市民に愛される鵜飼事業を継続したい。
今後見直しを検討する事項	コロナ禍であっても事業継続が可能となるよう、鵜飼事業など川文化保存発展のための創意工夫が必要である。また船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とのり」育成事業を今後も実施する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とのり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とのり」を育てることが重要である。鵜飼の人気と愛着を高める工夫が必要。	船頭育成事業は引き続き継続して実施し、伝統漁法の保存継承に努める。川文化を維持発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要であり、遊覧船事業も含め、河川空間活性化の為に官民が連携していくことが肝要である。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
6	2	1	観光費	277

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	観光事業振興基金積立金
事業目的	将来の観光振興に係る経費の一部を積立し、一時的に多額の費用が必要となる事業が発生した場合に活用する。
事業内容	<p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光事業振興基金への積立 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山温泉に係る入湯税の一部を基金の財源として積み立てる。 ○観光事業振興基金の取り崩し <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興に一時的に大きな費用が生じる場合において、基金の一部を取り崩して活用する。 ※入湯税が確定した後に補正予算として対応する。
事業の成果・効果	観光事業振興基金は、入湯税の一部を基金として積み立て観光施設の建設費用や観光施策に関する事業費に役立っている。令和2年度も計画的に実施し効果的な資金運用を実現することができた。

II : 個別事業内訳

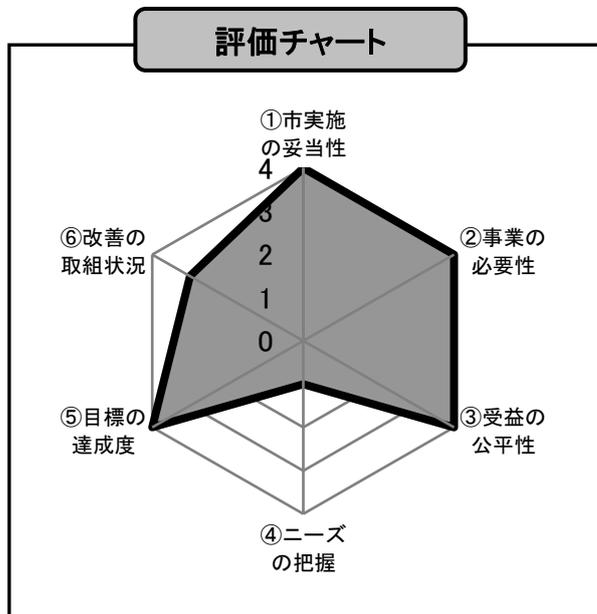
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
観光事業振興基金積立金	3,911	3,911	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3,911	3,911	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		7,410	3,911	1
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	7,410	3,911	1
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	条例で規定しており、市が将来において必要な観光事業に活用可能な財源確保の手法として必要な事業である。
②事業の必要性	4	計画的に基金として積み立てておくことで、経済危機等の状況であっても、必要な設備等への投資が可能となり、継続的な観光振興のため、実施の必要がある。
③受益の公平性	4	基金の用途として、近年の事業として観光案内所やトイレ整備等に用いており、観光客だけでなく、広く市民に恩恵のある事業である。
④ニーズの把握	1	基金の使い道は市民及び観光客のニーズの高い事業に投じるものであるが、基金の積み立てそのものはニーズ把握をする性質のものではない。
⑤目標の達成度	4	基金運用、活用を効率的、効果的に行い、成果を得ている。
⑥改善の取組状況	3	特になし

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	名鉄犬山ホテルの閉鎖・建替えに加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、入湯税が減額となることから、基金の利用は慎重に考える必要がある。
令和3年度に見直しを実施している事項	令和3年度に新たにホテルが開業することから、入湯税額も徐々に増加していくものと思われるが、用途については引き続きしっかりと精査した上で実施していく必要がある。
今後見直しを検討する事項	基金の用途の精査と的確な説明の実施

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
継続的な積立と安全で効率的な運用を図る必要がある。	令和3年度に、河畔に新たな宿泊施設が完成することから現在の厳しい状況を改善することを期待するとともに、利用者が増加するよう観光振興を進めていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)
木曽川うかい事業費特別会計	429

部局名	経済環境部
課名	観光課

I : 事業概要

施策事業名	一般管理
事業目的	「木曽川うかい」を犬山の伝統文化として、保存伝承すると共に、犬山の観光資源として活用する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 ○木曽川うかいに係る観光宣伝 <ul style="list-style-type: none"> ・各務原市との協力体制を強化し、各地での宣伝活動を実施する。 ○鵜飼に係る鵜の飼育管理 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ対策など鵜の健全な管理を強化する。 ○鵜匠の育成（男性3名の正規職員、女性1名の観光協会職員） <ul style="list-style-type: none"> ・犬山の伝統漁法、木曽川の観光資源として継続していくため、取組み体制について継続して検討する。 ●主な事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・飼料費 2,611千円 ・鵜飼保存・活性化委託料 1,017千円 鵜所による鵜飼の保存及びPR・活性化等の取組み ・鵜舟・屋形船出船業務委託料 5,651千円 ●その他 (効果)・木曽川うかいを伝統文化として保存し、観光資源として活用できる。 ・活用することにより、観光振興、観光誘客の促進が図られる。
事業の成果・効果	「木曽川うかい」は犬山が誇るべき貴重な文化財であるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けるとともに、大雨などによる河川の増水も多く、鵜飼観覧者数は昨年度よりも激減した(対前年比約16%)。非常に厳しい一年となったが、伝統漁法として保存継承をすることはできた。船頭育成事業においては、若手船頭育成の取組みを進めることができた。

II : 個別事業内訳

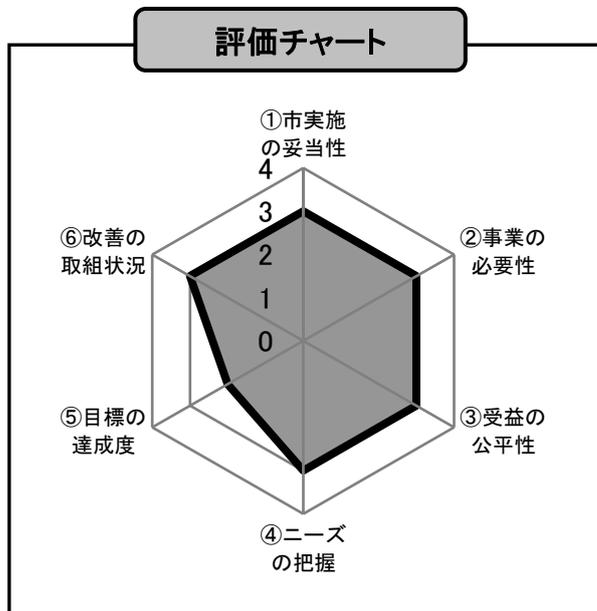
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
一般管理	14,380	14,380	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	14,380	14,380	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		31,291	14,380	31,696
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	31,291	14,380	31,696
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市指定文化財である貴重な犬山の伝統文化を保存継承していくためには、市営鵜飼の継続は必須である。
②事業の必要性	3	市指定文化財の貴重な犬山の伝統文化であり、保存継承していくべき事業である。
③受益の公平性	3	市民のまちへの誇りを高めるとともに、郷土への愛着醸成に寄与する事業であり、市民全体に関わりのある取組みである。
④ニーズの把握	3	市民うかい、親子うかい等を実施しており、多くの方に参加いただいていることから、鵜飼事業のニーズはあると認識している。
⑤目標の達成度	2	鵜飼観覧者数は新型コロナウイルスの影響が大きく、加えて大雨による川止めも多くなり激減した。船頭育成事業は、計画どおり進捗した。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、経済性等を考慮し実施している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、令和2年度は観覧者数が激減するなど、大変厳しい状況となった。そうした中、観覧にあたっては、船会社(木曾川観光(株))と連携しながら乗船者数を半数にするなど、感染症対策を講じながら実施し、コロナ禍における運用の見聞や経験を蓄積することができた。
令和3年度に見直しを実施している事項	引き続きコロナの影響は大きく予断を許さない状況であるが、感染症予防対策をしっかりと講じ、安心して楽しんでいただけるよう、関係者と連携して伝統漁法を継承していきたい。また、市民鵜飼なども感染症対策を工夫し開催し市民に愛される鵜飼事業を継続したい。
今後見直しを検討する事項	コロナ禍であっても事業継続が可能となるよう、鵜飼事業など川文化保存発展のための創意工夫が必要である。また船頭育成は喫緊の課題であり、「なかのり」「とものり」育成事業を今後も実施する必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
鵜舟の船頭(なか乗り、とものり)の育成が必須。取り分け専門性の高い「とものり」を育てることが重要である。鵜飼の人気と愛着を高める工夫が必要。	船頭育成事業は引き続き継続して実施し、伝統漁法の保存継承に努める。川文化を維持発展させるための多様な主体による多様な取組みが必要であり、遊覧船事業も含め、河川空間活性化の為に官民が連携していくことが肝要である。